

週 報

1998年4月12日 復活節第1主日

復活日(イースター) 礼拝

巻1

2号

1998年度 教会主題

「恵みの座に近づこう」

聖句 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に
かなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に
近づこうではありませんか。

へブライ人への手紙 4章16節

- 目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2. 一人が一人を伝道する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振替 00290-4-133994

牧師 秋吉隆雄

モンに変質する化学物質は、海流、気流に乗り、更に食物連鎖によって、全地球上に拡散している。この物質を微生物が摂取し、それが食物連鎖によってカモメまで至った時、何と二千五百万倍にまで濃縮されるという。従って、ヒョウ、北極クマ、クジラなど大型肉食動物の汚染濃度は異常に高くなり、食物連鎖の最高位にある人間は推して知るべしである。現在、人間の体内には250種以上の化学物質が残留しているという。

種の保存は、動物にとって最も基本的な本能の一つである。それが人間の作り出した合成化学物質によって破壊されている。ある種の動物の死滅は生態系を狂わしていくだろう。これらの研究は三十数年前、レイチェル・カーソン氏が「人類と動物は、運命共同体である」と書いた「沈黙の春」から始まったもので、有害物質の解明が急がれる。原題“OUR STOLEN FUTURE”の通り、人間は自らの手で未来を奪っているという恐ろしい報告書であった。

◇牧師室から◇

アメリカの三人の科学者が書いた「奪われし未来」をつんのめように読んだ。以前テレビで、動物界で生殖に関する異変が起こっていると放映されていた。日本近海のある種の貝の雌が雄化して繁殖しない。アメリカのワニのペニスが異常に縮小し卵が孵化しない。これらの原因は人間が便利で快適に過ごすために開発された合成化学物質が生殖ホルモンに影響を与えているとのことだった。

「奪われし未来」はこの原因を科学的に、そしてドラマチックに展開している。最近見られる、巣を作らないワシ、孵化しないカモメの卵、子供を産まないミンク、アザラシやイルカの大量変死などの異変を調べてみると化学物質がホルモんに異常をもたらしている。これらを環境ホルモン(体内分泌攪乱物質)と言っている。環境ホル